

縮減社会を生き抜き、あきたの未来を創造する新たな農業高校成長モデルの研究開発 ～地域定住人材の育成を目指したKANANOスタイル農業高校改革プロジェクト～

【研究開発の背景】

秋田県は超少子高齢、人口減少県。世界をはじめ日本の最重要課題のフロントランナーである。
学校と地域との協働による地域再生・農業改革が求められる。

◆2020年全国平均高齢化率29%⇒秋田県38% ◆2040年秋田県の高齢化率予測50%⇒「2040年問題」

【目指す生徒像】

人口減少に対応しつつ、農業関連産業を変革することができる人材を育成する。

1 金農コンソーシアムの構築(8つの関係機関で構成)

- ①秋田市 ②潟上市 ③大湯村 ④秋田県産業教育振興会
- ⑤秋田大学 ⑥秋田県立大学 ⑦秋田県教育委員会 ⑧本校

2 地域に開かれたカリキュラム開発

- ①カリキュラム開発等専門家(秋田県農業研修センター)
- ②地域協働学習実施支援員(公社法人秋田県農業公社)の配置

3 研究推進に向けた校内体制

- ①研究開発推進委員会の設置

運営指導委員会による事業への指導助言

ひと・まち・協働による
金農コンソーシアムの構築



秋田主催美人街道フォーラム
令和2年10月17日



コンソー・運営指導委員合同会議
令和2年10月20日(金農高)



秋田県立大学との連携協定
令和3年2月17日(県立大学)

「KPI」による金農オリジナル学習評価法(可視化された指導と評価の一体化)
ポートフォリオ、ルーブリック、金農版GKH(Gross Kanano Happiness)等により評価・検証

身に付けたい資質能力

- ①改革する力 ②思考力 ③人間関係構築力 ④実践力
- ⑤創造力・将来設計力 ⑥先見力 ⑦マネジメント力 ⑧多文化協働力

運営指導委員会による指導助言

令和2年度の取組状況

成果と課題

カリキュラム1年次 基礎 (In About)

到達目標「地域理解」

関係科目「農業と環境」「農業情報処理」「総合実習」他

○1年次の重点目標
現場視察や出前授業等で
地域理解を深める

2年次学校設定科目
「地域創生論」課題発見



長期インターンシップ



スマート農業実践



商品化の実践

【各学科における取組内容】

生物資源科: GAP研修、長期インターン、米食味官能調査
環境土木科: 現場視察、長期インターン、ドローン技術講習
食品流通科: 酒造会社視察、販売戦略講演、出前授業
造園緑地科: 長期インターン、スマート農業実践、技術講習会
生活科学科: 梨商品化、着付け講座、巻き寿司講習

【取組状況(実数)】

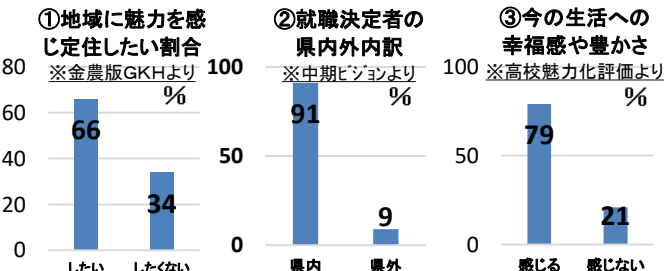
- 産業界、大学等研究機関と連携した事業所数: **20人**
- 講師を招聘し、講義や講演等を実施した回数: **20人**
- 本事業を活用して研修等に参加した生徒割合: **74%**
- 長期インターンシップに参加した生徒の数: **18人**

【成果】

- 今年度の目標である「地域理解」に関しては、72%の生徒が地域の課題を見つけ、意欲的に取り組みたいと認識している。
- 六次産業化の実践は、地域の魅力再発見に繋がっている。
- コンソーシアムの構築は、組織同士の連携強化に寄与した。

【課題】

- 校内組織体制の強化と、情報発信による広報活動の推進。
- 金農版GKH指標の確立と、評価の一体化に向けた検証。



成長モデル研究領域

1 「グローバルスタディ」領域

GAP教育、グローバル農業研修

2 「第4次産業・農業革命」領域

スマート農業実践、大学等との連携

3 「ソーシャルスキルアップ」領域

長期インターン、6次産業化実践

4 地域体型農業コミュニティ形成」領域

農業交流活動、文化伝統の継承活動